

# 枚方淀川探鳥会2024年9月

2024年(令和6年)9月1日(日) 9:00~12:00

日本野鳥の会大阪支部

前田初雄、甲田正二、西脇淳浩、香月清宏、  
松井正夫、新名泰博、平 軍二 (☎090-6901-1425)

## I 今月の鳥・モズ(幼鳥)



(西脇淳浩)

### ←モズ(幼鳥) 先月探鳥会ではモズの幼鳥を確認することができた。

大阪府の鳥として指定されているモズは、住宅地・公園・里地・農耕地に近い疎林などを好み、大阪府内の何処にでもいる。特に枚方淀川探鳥会では河川敷は、草原が主であることから、ほぼ毎月観察できる鳥である。

しかし、私は万博公園で鳥を見てきたが、植えられた木々が生長し樹林になるとモズは繁殖しなくなり、留鳥でなく冬鳥になることを、体験している(下記①)。

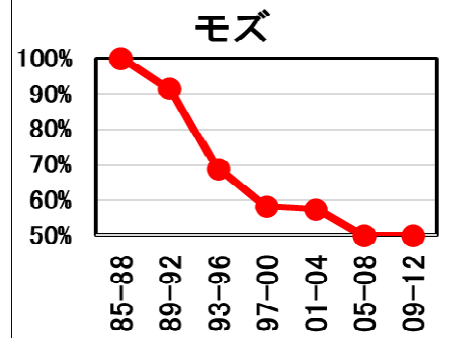
大泉緑地では、当時大阪府大におられた鳥学者山岸哲先生が、観察記録を「モズの嫁入り」(大日本図書 1981年)にまとめられている。しかし、現在大泉緑地は植えられた木々が生長し樹林となり、下記、万博公園の状況と同様、モズが繁殖できなくなったと思われる。

尚、平は1980年頃、大泉緑地で山岸先生がつけられた足環付きモズを、観察したことがある。

### ①万博探鳥会での 観察頻度→

万博公園探鳥会を開始した1985年には園内でモズが繁殖しており、留鳥として一年中観察できた。

その後園内の木々が生長し樹林となった結果、モズは繁殖期には全く観察できない、冬鳥となった。



### ②モズの名前の由来 百鳥(ももとori=多くの鳥)の声をまねるので、百舌・モスといわれ、そこからモズとなったとのこと。

百舌鳥の名前の通り、ウグイス・ホオジロ・イカル・メジロ・オオヨシキリなどいろんな鳥の鳴き声を真似することができ、私もホオジロの鳴き声を聞いたことがあります。何故まねるかについては、さえずりの替え歌が多いほど縄張りに入ってくる同種の鳥が少なくなり、逆にモズの雌が魅力を感じて寄ってくるのでないかとのことである。

(「鳥のことわざうそほん」と国松俊英 1990 山と溪谷社)

### ③モズの高鳴き

モズは秋になると、餌の少なくなる冬期のための採食なわばりをつくります。この時期モズは雌雄とも単独で行動し、樹冠、民家のテレビアンテナなど目立つ場所で「キーキーキーキー」と、かん高い声でなわばりを主張します。この行動は「モズの高鳴き」と呼ばれ、秋の知らせる合図として親しまれている。高鳴きを始める時期は9月なので、今日はいかがでしょうか。また、「モズの高鳴き75日」という言葉もあるが、これはモズの高鳴きを初めて聞いてから75日目頃に霜が降りるという、信濃地方の言い伝えとのこと。



(平 軍二)

### ④季語のモズ 俳句に対しては全く門外漢の平ですが、この俳句を知ったとき、「モズの高鳴き」を言い表した、ぴったりの句と思いました。

(季語深耕「鳥」 小林清之介 1988 角川選書)

「ある朝の鴉ききしより日々の鴉」 安住敦

## II 探鳥会観察チェックリスト

日本 鳥類 目録	鳥名	観 察 回 数	2024										日本 鳥類 目録	
			1/7	2/4	3/3	4/7	5/5	6/2	7/7	8/4	9/1	10/6		
5	キジ	49				3	2	3			夏			5
10	マガン	0				1					休			10
21	ツクシガモ	1	3	1							み			21
26	オカヨシガモ	47	3	26	38	8								26
27	ヨシガモ	16	6	11	19	2								27
28	ヒドリガモ	44	2			3								28
29	アメリカヒドリ	5												29
30	マガモ	56		2										30
32	カルガモ	91			2	4	7	3						32
34	ハシビロガモ	9												34
35	オナガガモ	8												35
36	シマアジ	1												36
37	トモエガモ	1												37
38	コガモ	59	1											38
42	ホシハジロ	40	48	70	33	2								42
43	アカハジロ	4		1										43
46	キンクロハジロ	42	114	275	67	31								46
47	スズガモ	6												47
58	ミコアイサ	1												58
59	カワアイサ	16	15	6										59
60	ウミアイサ	3												60
62	カイツブリ	46	1	1		2								62
64	カンムリカイツブリ	57	4	9	2	5	1							64
66	ハジロカイツブリ	4												66
74	キジバト	112	3	10	6	4	7	2	2					74
83	シロエリオオハム	1												83
127	カワウ	111	9	16	6	3	11	5	6					127
139	ゴイサギ	10												139
141	ササゴイ	15				2	1	1						141
143	アマサギ	2						3						143
144	アオサギ	113	4	2	10	4	1	1	2					144
146	ダイサギ	108	2	3	3	2	1	6	1					146
148	コサギ	100	3	4	1	2	1	3	3					148
153	ヘラサギ	1												153
154	クロツラヘラサギ	1												154
166	クイナ	12												166
170	ヒクイナ	7												170
174	バン	23												174
175	オオバン	48	53	122	54	66	8							175

日本 鳥類 目録	鳥名	観 察 回 数	2024										日本 鳥類 目録	
			1/7	2/4	3/3	4/7	5/5	6/2	7/7	8/4	9/1	10/6		
185	ホトギス	2									夏			185
187	ツツドリ	2									休			187
188	カッコウ	1									み			188
192	アマツバメ	2												192
194	タゲリ	1												194
195	ケリ	27												195
202	イカルチドリ	9												202
203	コチドリ	30			1		5							203
204	シロチドリ	4												204
219	タシギ	4	1											219
227	チュウシャクシギ	2												227
235	アオアシシギ	1												235
239	クサシギ	3												239
241	キアシシギ	1					4							241
244	イソシギ	80	2	3	1	1	1							244
251	トウネン	1												251
266	ハマシギ	1												266
286	ユリカモメ	22												286
293	ウミネコ	3												293
294	カモメ	3												294
299	セグロカモメ	19		1										299
307	コアジサシ	9												307
339	ミサゴ	66	1	2	2	1	1	1						339
340	ハチクマ	2												340
342	トビ	92	2	2	1	3	3	2	1					342
349	チュウヒ	1		1										349
350	ハイロチョウヒ	1												350
355	ハイタカ	33	1	2										355
356	オオタカ	25		1	1									356
357	サンバ	1												357
358	ノスリ	34	1	1										358
366	オオコノハズク	1												366
383	カワセミ	97	1		1		3	1	2					383
388	アリスイ	9												388
390	コゲラ	94	2	3		1	1	1						390
393	アカゲラ	6												393
401	チョウゲンボウ	53	1		1	2								401
407	ハヤブサ	26	1		2		1	1						407

日本 鳥類 目録	鳥名	観 察 回 数	2024										日本 鳥類 目録	
			1/7	2/4	3/3	4/7	5/5	6/2	7/7	8/4	9/1	10/6		
412	サンショウクイ	1											夏	412
418	サンコウチョウ	1											休	418
420	モズ	103	7	6	3	6	1	2	3	み				420
435	ハシボソガラス	114	11	17	14	7	12	8	4					435
436	ハシブトガラス	111	3	4		3	2							436
438	キクイタダキ	8												438
439	ツリスガラ	1												439
442	ヤマガラ	7												442
443	ヒガラ	1												443
445	シジュウカラ	106	7	4	6	12	5	2	4					445
452	ヒバリ	64												452
455	ショウドウツバメ	6												455
457	ツバメ	58				11	18	20	45					457
459	コシアカツバメ	20							15					459
461	イワツバメ	46	100		30	1	60	3	10					461
463	ヒヨドリ	115	153	120	32	14	36	10	40					463
464	ウグイス	109	6	4	4	10	16	5	5					464
466	エナガ	87	5	9	6	3								466
476	オオムシクイ	5												476
477	メボソムシクイ	5												477
479	エゾクシクイ	1												479
480	センダイムシクイ	7												480
483	メジロ	92	8	3	4	7	2	6	6					483
492	オオヨシキリ	30					3	8	3					492
499	ヤッカ	29					8	1	3					499
506	ムクドリ	102	13	35	2	33	14	76	13					506
508	コムクドリ	5												508
511	ホシムクドリ	2												511
520	マミチャジナイ	1												520
521	シロハラ	51	2	1										521
522	アカハラ	2												522
525	ツグミ	55	4	27	30	11								525
533	ノゴマ	1												533
536	ルリビタキ	1												536
540	ジョウビタキ	55	1	2	2									540
542	ノビタキ	13												542
549	インヒヨドリ	33		1	1									549

日本 鳥類 目録	鳥名	観 察 回 数	2024										日本 鳥類 目録	
			1/7	2/4	3/3	4/7	5/5	6/2	7/7	8/4	9/1	10/6		
552	エゾビタキ	8											夏	552
553	サメビタキ	1											休	553
554	コサメビタキ	17											み	554
558	キビタキ	16												558
560	オジロビタキ	1												560
561	オオルリ	4												561
569	スズメ	114	26	33	24	25	24	10	23					569
573	キセキレイ	36	1	2	1									573
574	ハクセキレイ	105	8	14	8	4	1	6	1					574
575	セグロセキレイ	102	2	2	2		1							575
584	タヒバリ	29	2	6	25	2								584
586	アトリ	29												586
587	カワラヒワ	104	35	31	36	11	4	14	2					587
588	マヒワ	6												588
592	ベニマシコ	44												592
600	シメ	41		1										600
602	イカル	17												602
610	ホオジロ	109		8	2	6	11	10	4					610
614	ホオアカ	6												614
617	カシラダカ	23												617
618	ミヤマホオジロ	1												618
624	アオジ	65	6	12	9	4								624
628	オオジュリン	17												628
	コジュケイ	13												
	カワラバト(ドバト)	110	23	130	56	14	13	17	1					
	ハッカチョウ	1												
	カッコウSP	5												
	アイガモ	3							2					
	メボソムシクイSP	5					1							
	ヒタキSP	3												
種数合計(自動計算)			49	48	41	39	36	33	26					
個体数合計(自動計算)			708	1047	548	393	290	239	202					
探鳥会参加者数			24	17	27	24	32	26	17					
11 年 間	1~2回		2012年1月~2023年12月の11年間に観察回数数の少ない種・多い種、更に樹林伐採の影響を受けると思われる種をリストアップした。											
	100回以上													
今後樹林伐採影響														

### Ⅲ 先月(7月7日)探鳥会報告

(写真 西脇淳浩)



ホオジロ



ササゴイ



コサギ

梅雨晴れに恵まれたものの、高温となり熱中症の注意喚起をしてスタートした。河川敷に降りると、鳥影はやや少ない中、スズメとモズの幼鳥が親鳥に餌をねだる様子を観察した。淀川岸に行くとなりの雨の影響で水位が上がっており、中洲が消えており鳥はほとんど見えず、川沿いの遊歩道に溜まった泥の上でサギ類、セキレイ類、イヌ、アライグマ、亀などの足跡を観察した。天の川では、カワセミは一瞬で飛び過ぎただけだったが、ササゴイやコサギの探餌、ヒヨドリ幼鳥の水浴びなどを観察した。冬に樹木が伐採された場所では、森林の鳥の代わりにホオジロが囀り、セッカの囀り飛翔も観察した。もともと鳥が見つらい時期で、猛暑と増水もあり、最終的には26種の探鳥となった。

(幼鳥) モズ・ヒヨドリ・カワラヒワ・ムクドリ・スズメ

(囀り) キジバト・ウグイス・オオヨシキリ・セッカ・ホオジロ

### Ⅳ 次回は10月6日(日)

今日と同じように 大阪支部HPからホームズ様式からお申し込みください。

10月は毎年ノビタキ観察の月、今年はどうでしょうか。



(平 軍二)

\*\*\*\*\*★\*\*\*\*\*★\*\*\*\*\*★\*\*\*\*\*★\*\*\*\*\*★\*\*\*\*\*

### I モズ(続き)

#### ⑤モズのはやにえ→

モズは動物食、カエル・コオロギ、時には猛禽類を思わせる鋭い嘴でシジュウカラなど小鳥も食べる。

高鳴きの季節になると、これらの獲物をウメの木の枝先や鉄条網などさして、乾燥した保存食「はやにえ」を作る行動を観察できる。

この「はやにえ」は、冬の保存食といわれていたが、**西田有佑先生**(大阪市大講師)により、雄がプロポーズを成功させるための栄養補給食であった。「はやにえ」を多く食べた雄は、繁殖シーズンに早口(早い歌唱速度)で歌うことができ、**雌と早く結婚**できるとのことです。

(野鳥誌2021年1・2月号)

